AMDA ジャーナル ー国際協力ー　2021 年夏号 付録　2022 年 7 月 25 日発行　□発行定日　年 4 回（1・4・7・10 月 各 25 日）□ 1995 年 11 月 27 日　第三種郵便物認可

2021 年度

AMDA 年次報告書

2021.4.1 ～ 2022.3.31

ウクライナ避難者支援にて、男性を診る AMDA 医師

2021 年度も国内外で大規模な自然災害が発生しました。「ローカルイニシアティブ」に基づき、AMDA 本部は各国支部・協力団体とともに、現地で必要とされる医療や物資支援を実施しました。また、2022 年 2 月にはウクライナで人道危機が発生し、突然「日常」を失った方々が、自身や家族の身の安全のため、国内外に避難を余儀なくされています。AMDA は隣国ハンガリーを拠点に、ウクライナからの国外避難者のために、診療のみならず足湯やマッサージなどを行い、ウクライナ国内避難者に対しては医薬品や食糧品、生活物資などを支援しています。

新型コロナウイルス感染は 2021 年度も国内外で続いており、政府や自治体の要請に基づいて各国で医療支援などを行ってきました。一方、人との接触や移動が困難な中、国内外の関係者・団体と「オンライン」を通しての研修や意見交換などを積極的に開催しました。

2021 年度の活動において、「平和は当たり前ではない」ということ、加えて「人が人を支えるという強い絆」を AMDA は実感しました。今後も「平和」を目指し、必要な支援を続けてまいります。これまで AMDA の活動にご支援いただいている皆様に改めて心より感謝申し上げます。

AMDA の「平和」の定義

「今日の家族の生活と明日の家族の希望が実現できる状況」

平和の阻害要因

1. 紛争、戦争
2. 災害
3. 貧困

阻害要因を克服するプログラム

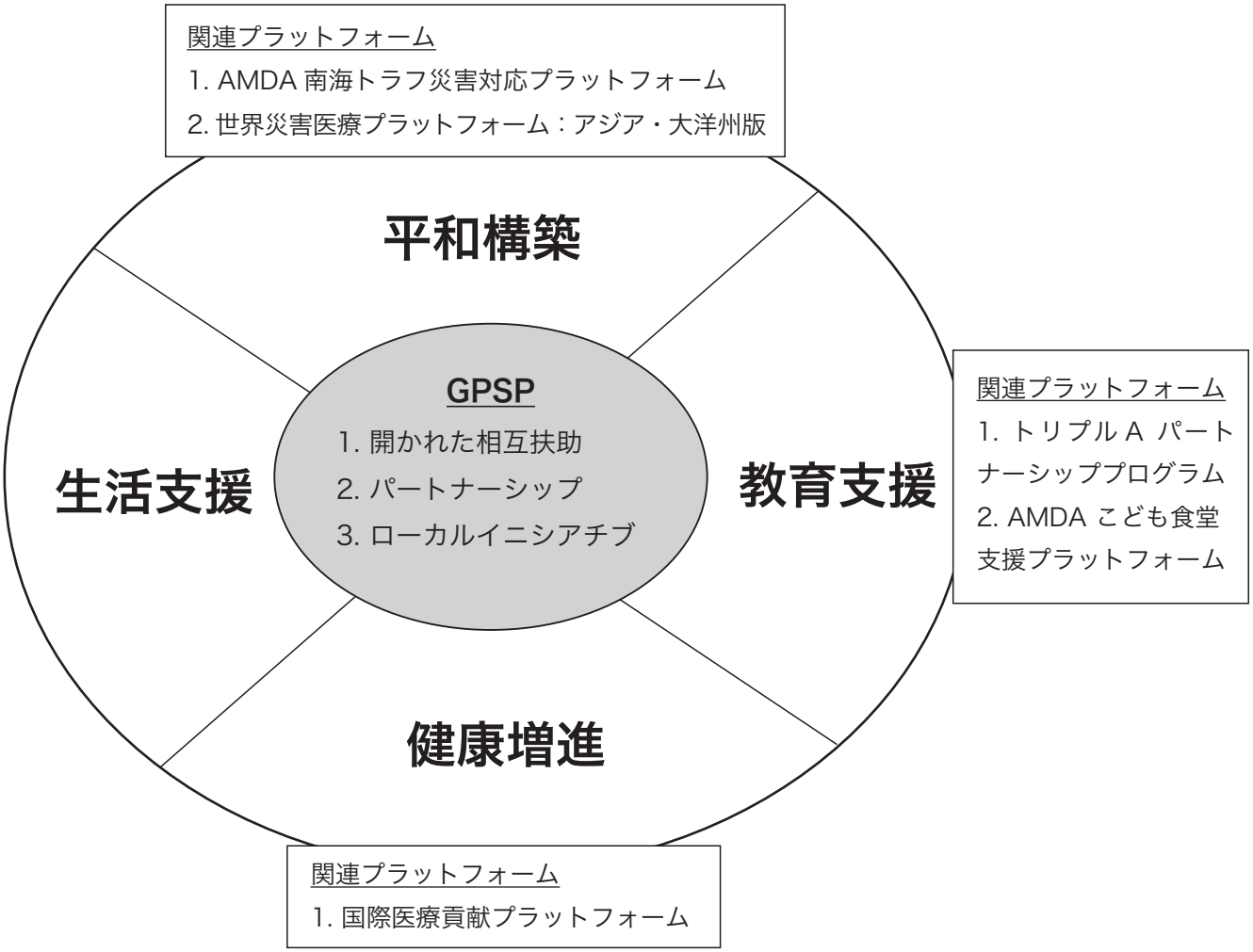
GPSP プログラムコンセプト

①開かれた相互扶助
②パートナーシップ
③ローカルイニシアチブ

*GPSP とは、世界平和パートナーシップ (Global Partnership for Sustainable Peace) の略

GPSP 4 分野

・平和構築
・健康増進
・教育支援
・生活支援



GPSP プログラム分類表

平和構築分野	健康増進分野	教育支援分野	生活支援分野
①難民支援事業 a) 緊急支援 b) 復興支援	①プライマリーヘルスケア事業	①グローバル人財育成事業	①有機農業事業
②災害支援事業 a) 緊急支援 b) 復興支援	②医療技術移転事業	②こども食堂支援プラットフォーム事業	
③災害対応プラットフォーム a) 南海トラフ災害対応プラットフォーム b) 災害鍼灸	③医療支援事業		
④災害医療機動チーム	④友好病院事業		

*** プライマリーヘルスケア（AMDA の考える定義）：**
貧困の環境下での健康増進を目的とし、以下 3 種類の活動を含むものが望ましい。
①住民参加
②知識を広める活動
③社会的及び経済的改善に向けての活動

目次

平和構築
活動写真 …… 3
1. 災害支援事業 (緊急支援活動)
1）災害支援 …… 5
緊急支援　時系列一覧
ウクライナ避難者支援活動
フィリピン台風 22 号・18 号避難者支援活動
ハイチ地震被災者緊急支援活動
中国・河南省豪雨被災者緊急支援活動
インドネシア土砂災害被災者緊急支援活動
マレーシア洪水被災者緊急支援活動
2）新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援 …… 11
日本国内　岡山県・沖縄県での新型コロナ対応
ネパール　新型コロナウイルス対策に関する物資支援
ブータン王国　新型コロナウイルスに対応する支援
マレーシア　農村地域における新型コロナウイルス接種プログラム支援
カンボジア　新型コロナ対応
2. 災害支援事業（復興支援活動） …… 16
東日本大震災復興支援活動
ホンジュラス・ハリケーン被災者復興支援活動
ハイチ　歯科検診
3. 災害対応プラットフォーム …… 19
4. その他 …… 21
駐日大使館・お米贈呈
WHO 萩谷先生パプアニューギニアへ派遣

健康増進
活動写真 …… 22
1. プライマリーヘルスケア事業 …… 23
インド・AMDA ピースクリニック
2. 医療支援事業 …… 24
ルワンダ学校保健事業
3. 友好病院事業 …… 25

教育支援
活動写真 …… 27
1. グローバル人財育成事業 …… 28
AMDA 中学高校生会
2. こども食堂支援プラットフォーム …… 30
3. その他 …… 31
令和 3 年度岡山県 WWL 構築支援事業 「Well-being フォーラム」事前セミナー
ネパール・災害の備えについて
インドにて AMDA 賞授与

生活支援
活動写真 …… 34
1. 有機農業事業 …… 35
マリノ・フードプログラム
2. その他 …… 35
インド・お年寄りの家支援
フィリピン・街の生活を支える非正規労働者支援

連携協力協定調印
団体概要
AMDA 役員
国内の動き
会計資料

平和構築

緊急支援

ウクライナ避難者緊急支援
傷病者の処置中の様子

ハイチ地震緊急支援活動

フィリピン　台風 22 号シアルガオ島医療支援

フィリピン台風 22 号　12 月 25 日シアルガオ島にて

フィリピン台風 18 号　処置中の様子

新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援

カンボジア
チェンラ大学へアルコールディスペンサーの提供

沖縄県要請・新型コロナウイルス感染症　医療支援
看護師活動風景

南海トラフ災害対応プラットフォーム

11 月 28 日　医療救護所訓練

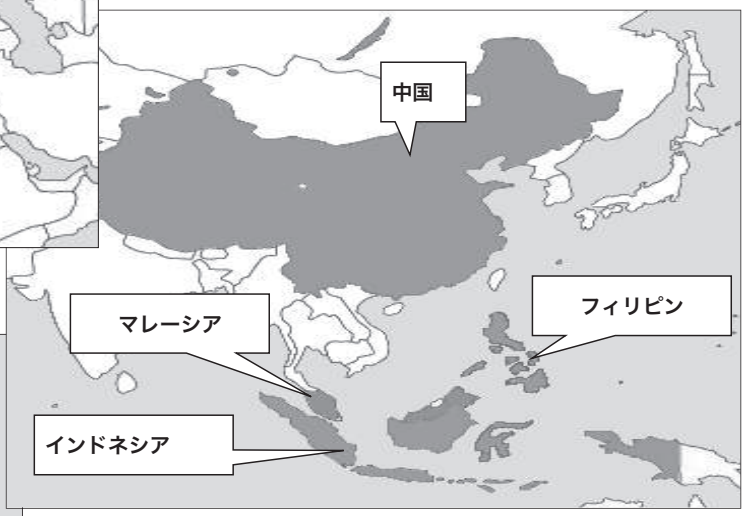
日本労働組合総連合会岡山県連合会との協定

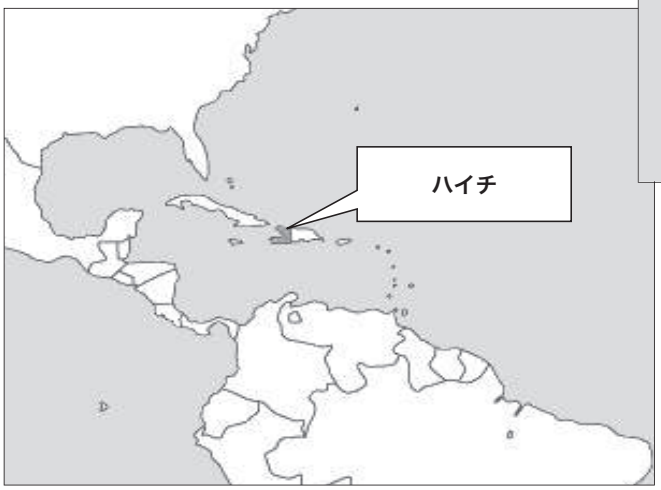
兵庫県養父市との協定

1　災害支援事業　―緊急支援活動―

【災害支援（緊急支援）時系列一覧】

支援活動	活動期間	活動実施地域
中国・河南省豪雨被災者緊急支援活動	21/7/25 ～ 21/8/19	河南省
ハイチ地震被災者緊急支援活動	21/8/14 ～継続中	グランダンス県ジェレミー市近郊
インドネシア土砂災害被災者緊急支援活動	21/10/5 ～ 21/10/9	南スラウェシ州ルウー県
フィリピン台風 18 号被災者緊急支援活動	21/10/17	ラ・ウニオン州ルナ町
フィリピン台風 22 号被災者緊急支援活動	21/12/1 ～ 22/3/13	ボホール島、シアルガオ島、 レイテ島南レイテ州
マレーシア洪水被災者緊急支援活動	21/12/22 ～継続中	マレー半島
ウクライナ避難者緊急支援活動	22/3/7 ～継続中	ハンガリー・キシュバールダ、ベレグスラーニー、 ザホニー





1. 災害支援

■ウクライナ避難者緊急支援活動

◇**実施場所**：　ハンガリー・キシュバールダ、ベレグスラーニー、ザホニー
◇**実施期間**：　2022 年 3 月 7 日～継続中
◇**派遣者**（派遣順）：　柴田 和香 / 医師（日本資格）/ KIT 王立熱帯研究所（オランダ・KIT Royal Tropical Institute）国際保健修士課程修了見込・2006-2007 年 AMSA インターナショナル代表、吉田 修 / 医師（日本資格）/ TICO 代表・さくら診療所理事長、松本 圭古 / 看護師（日本資格）/ AMDA 緊急救援ネットワーク登録メンバー、中村 哲郎 / 調整員 / TICO、難波　妙 / 調整員 / AMDA 理事、榎田 倫道 / 看護師（日本・オランダ資格）/ Nieuw Unicum（オランダ・福祉施設）、佐藤 拓史 / 医師（日本資格）/ AMDA 理事、吉田 純 / 医師（日本・ハンガリー資格）/ 岡山大学病院卒後臨床研修センター・TICO
◇**現地協力者**（活動順）：　志井田 海 / ハンガリー国立センメルワイス大学医学部、光井　一輝 / ハンガリー国立センメルワイス大学医学部、大堀 裕太郎 / ハンガリー国立センメルワイス大学医学部
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**：　AMDA・TICO 合同医療チーム 8 人（医師 4 人、看護師 2 人、調整員 2 人）、ハンガリー国立センメルワイス大学学生 3 人
◇**受益者数**：　80 人（ハンガリーでの医療支援受益者のみ）
◇**受益者の声**：
（マッサージを受けたボランティアの方）
「疲れが取れたから、笑顔で避難者の人たちに接することができる。」
◇**事業内容**：
2 月下旬のウクライナの人道危機により、3 月 31 日時点でウクライナより約 404 万の人たちが自分と家族の身の安全のため、周辺国に避難した。3 月 7 日より日本人医師 1 人とハンガリー・国立センメルワイス大学に通う日本医学生 1 人が、37 万人が避難するハンガリーにてニーズ調査開始。3 月 9 日、特定非営利活動法人 AMDA と特定非営利活動法人 TICO（徳島県）合同医療チーム（医師 1 人、看護師 1 人、調整員 2 人）が岡山を出発しハンガリーへ。そして国境近くの町や村で、地元の医療者たちと共に避難者への診療を開始した。19 日に第 3 次チーム（医師 2 人、看護師 1 人）を派遣した。

①ウクライナからハンガリーへの避難者支援
ウクライナから国境を越えてベレグスラーニーにやってきた避難者のために中継地点「ヘルプセンター」が設置。合同医療チームはヘルプセンターにある仮設診療所に、ハンガリーの医療者と共に、避難者の診療を実施。24 時間交代で医師・看護師が入った。1 日あたり 15 ～ 20 人の患者を診察するとともに、ヘルプセンターを巡回し、避難者や、避難者を 24 時間見守るボランティアの方々からの健康相談にも対応。さらに、避難者・ボランティアの方々の癒しとして、看護師が足湯やマッサージなどを提供。マッサージを受けながら避難者がお話される避難されたときの状況などを、看護師は静かに伺っていた。
また、国境の町であり、ウクライナとハンガリー間を走る列車の駅ザホニー駅の中の仮設診療所でも、ザホニー町長の要請を受け、ウクライナからの列車が到着する午後 5 時から 3 時間、現地医師とともに避難者の診療にあたった。チームが活動に入った当初、診療室の薬が整理整頓されていなかったが、合同チームがハンガリー語・英語・日本語でラベルを作り、整頓用の棚は町長自ら搬入を行った。

②ウクライナ国内への支援

国境近くの町キシュバールダにある「カルパッチヤハウス（Karpatalja Haz）」にて、ウクライナの病院での医薬品不足の状況を伺った。日本人はウクライナ国内へ入ることができないため、カルパッチヤハウスを通し、医薬品の支援を決定した。また、ウクライナ人の検査を目的に、ウクライナ人医師にポータブルエコー（超音波診断装置）も寄贈した。

その後、カルパッチヤハウスにて、ウクライナ国内のリハビリテーション施設に避難者が避難してきている状況を聞く。避難者の生活のため、AMDA・TICO は、必要な家電製品の支援を決定。同施設関係者が AMDA に代わり、冷蔵庫や電子レンジなどを購入した。また、カルパッチヤハウスのパートナー団体「ヴァルダ伝統文化協会 (Várda Hagyományrz, Kulturális Egyesület) と協力協定を締結、この団体を通し、現在ウクライナ国内で必要とされている新鮮な野菜や果物などの支援も行った。

■フィリピン台風 22 号避難者緊急支援活動

◇実施場所： ボホール島、シアルガオ島、レイテ島南レイテ州

◇実施期間： 2021 年 12 月 17 日～ 2022 年 3 月 13 日

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

フィリピン海軍、大統領府事務官レオンシオ・エバスコ氏、フィリピン開発安全女性委員会 (WiNDS)、AMDA フィリピン支部、AMSA(アジア医学生連絡協議会) フィリピン支部、フィリピン医学生協議会、ロータリークラブマニラ 101、GoShare Foundation

◇受益者数：

（ボホール島食糧支援）1,500 世帯

（シアルガオ島医療・食糧・物資支援）医療支援 1,668 人、読み聞かせとぬり絵コンテスト 500 人、食糧・物資支援 2,071 人

（レイテ島・南レイテ州物資支援）2 日間計　1,950 人以上

◇受益者の声：

（シアルガオ島の方より）

「AMDA が初めて支援をしてくれた団体です。特にクリスマス・イヴにチームが到着してくれたことで希望を与えられました。」

◇事業内容：

12 月 16 日午後、猛烈な台風 22 号（フィリピン名オデット）がフィリピンに上陸。同国中部のシアルガオ島に上陸後、レイテ島やボホール島、セブ島などを横断し、各地で甚大な被害をもたらした。2 月 21 日時点、死者数 405 人、負傷者数 1,371 人、行方不明者数 52 人、約 299 万世帯 1,061 万人が被災した。（フィリピン国家災害リスク削減管理委員会　発表）。

台風上陸翌日の 12 月 17 日、AMDA は現地協力者であるフィリピン大統領府 事務次官グロリア・メルカド氏及び AMDA フィリピン支部に連絡をとり、情報収集を開始。コロナ禍において日本からフィリピンへの医療チーム派遣は困難なため、現地で必要とされる支援を行うことを決定した。

①ボホール島食糧支援

洪水や家の倒壊などの被害が著しいボホール島にて、フィリピン海軍に加え、2017 年に AMDA との協力協定に署名した大統領府事務官レオンシオ・エバスコ氏、フィリピン開発安全女性委員会、AMDA 合同で、お米や缶詰食糧支援を実施。23 日、マリボホック町長、翌日にはロボック町長にそれぞれ 50 キロの米 20 袋と缶詰などを贈呈した。一方、

ウバイ市での活動は、支援物資の調達や道路の復旧を待っていた。準備の整った27日、フィリピン海軍予備役や現地のボランティアの方々による食糧の袋詰めを開始。そして29日、同市内の海沿いの地域に住む500世帯を対象に、合計50キロの米20袋及び缶詰1,000個を提供することができた。

②シアルガオ島医療・食糧・物資支援

最初に台風が上陸したシアルガオ島のデル・カルメン町コロ副町長より「同町のうち、2つの地域が届いていないため、支援してほしい。」とAMDAフィリピン支部に要請があり、同支部医療チーム（医師2人、調整員1人）は12月24日にボートに乗って同島入り。フィリピンにとって1年の中で最も大切なクリスマスの25日、要請のあった2カ所で、医師2人による無料診療と薬の提供、食糧・物資支援、そして子どもたちを対象とした絵本の読み聞かせやぬり絵コンテストといったメンタルケアに関する活動も行った。チームは翌日26日にマニラに戻る予定だったが、悪天候によりフライトがキャンセル、28日まで滞在が延長となったため、この日、同島の別の町2カ所でも無料診療と、子どもたちにメンタルケアに関する活動を行った。27日、28日は現地の診療所にて新型コロナワクチンの接種の手伝いを行い、同日、無事にチームはマニラに戻った。

③レイテ島・南レイテ州支援

12月23日、約10万世帯が被災した南レイテ州の元知事の要請を受け、追加で支援を決定。現地協力者や複数の協力団体により準備された水や米・缶詰、衛生用品やブルーシートなどの支援物資が1月16日、フィリピン海軍のご協力でマニラを出発した。そして1月29日、南レイテ州の3つの町で支援を実施。今回の支援は、特に災害の影響を長く受けやすい子どもを対象にマジックショーなどを開催。3カ所合計で子どもたち58人、高齢者168人含む参加者1,250人に対し、マジックショーと、その後、支援物資として飲料水や食糧などを配った。3月13日には第2弾として同州の2つの町にてマジックショーを実施、参加した合計700人以上の子どもたちはおもちゃと文房具などのセット、ハンバーガーセットやお菓子などを受け取った。

■フィリピン台風18号被災者緊急支援活動

◇**実施場所：**　ラ・ウニオン州ルナ町
◇**実施日：**　2021年10月17日
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成：**
AMDAフィリピン支部、ルナ町、フィリピン陸軍予備役、その他協力団体
◇**受益者数：**　医療支援　1,213人、物資支援　350世帯
◇**事業内容：**

10月8日未明にフィリピンの東で発生した台風18号は勢力を強めながら北西に進み、12日午前0時（現地時間11日午後11時）、ルソン島の北に位置するフガ島に上陸した。台風はその後北西の海上に抜けたものの、国内各地で洪水や土砂災害などが発生。約30万世帯116万人が被災した。そのうち、ラ・ウニオン州でも鉄砲水や洪水、土砂崩れなどが発生し、多くの住民が避難を余儀なくされ、台風上陸から3日が経過した15日時点で5,000世帯が避難所に避難しており、医療や食糧などの支援を必要としていた。

その状況を踏まえ、10 月 17 日、AMDA フィリピン支部は、副支部長含む 7 人のメンバーを活動地となるルナ町サントドミンゴ・ノルテ地区に派遣。フィリピン陸軍予備役やその他協力団体らと、被災者を対象に無料診療及び物資支援を行った。

この日診療を受けたのは 1,213 人。筋肉痛や関節痛の方が最も多く、続いて高血圧、アレルギー症状や急性胃腸炎の症状が多く見られ、必要に応じて無償で薬が処方された。更に、米や麺類、缶詰などの食糧を 350 世帯に配布した。活動後、この支援を行ったエリカ・タニア・ダビロ副支部長は、「このコロナ禍で発生した災害時、助けを必要とする方々のために、多くの人が活動に参加したことに感動しました。ボランティアやご支援いただいた皆様に心より感謝申し上げます。ともに乗り越えよう！ (Together, we can!)」と語った。

■ハイチ地震被災者緊急支援活動

◇**実施場所**：　グランダンス県ジェレミー市近郊
◇**実施期間**：　2021 年 8 月～継続中
◇**派遣者**：　森田　佳奈子／医療調整員／ AMDA 緊急救援ネットワーク、AMDA ハイチ支部（第 1 陣 6 人、第 2 陣 7 人、第 3 陣 6 人）
◇**受益者数**：　医療支援：434 人 ／ 食糧支援：726 人 ／ 児童向け支援：78 人
◇**事業内容**：

【災害概要】

2021 年 8 月 14 日朝、中米ハイチにおいて、マグニチュード 7.2 の地震が発生。AMDA は 8 月 17 日よりグランダンス県ジェレミー市近郊において緊急支援活動を開始した。ハイチ国内における被災規模は、8 月 18 日の時点で死者 1,900 人以上、負傷者 9,900 人以上とされており、13 万 7 千棟を超える家屋が全壊・損壊した（国連人道問題調整事務所発表）。

【活動内容】

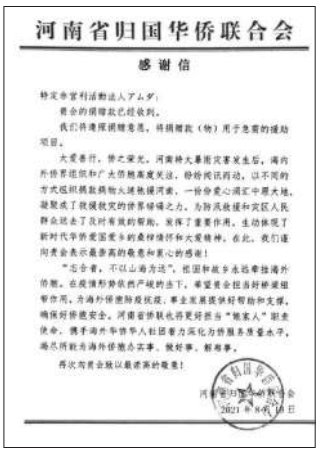
このような壊滅的な状況の中、AMDA ハイチ支部主導で、大別して 2 つの活動期間に及び救援活動が行われた。活動の主な内訳は、医療支援及び支援物資の配布であり、また子どもたちを対象にクラッカーなどの菓子類や乳児用のオムツなどを提供した。

第 1 次派遣の際、活動場所となったボモンやラティボリエーでは、もともと現地に医師や看護師がおらず、このため、医療サービスの提供は地域住民に大変喜ばれる結果となった。また第 2 次派遣の際に訪れたプラン・マタン及びコレイユでは、発災後、AMDA が最初に現地入りした人道支援団体だったケースが地域によって見られた。プラン・マタンでの活動は、そもそもの発端が、先遣隊からこの地域における支援の必要性について報告があったため、再訪して支援を行った形である。その後、日本からも調整員 1 人がハイチ入りし、災害対策関連各所との調整業務にあたった。

一方、既に中長期的な復興支援計画がボモンにおいて進行中である。AMDA ハイチ支部長がボモン市長と協議した結果、建築家の坂茂氏率いる NPO 法人ボランタリー・アーキテクツ・ネットワーク（VAN）のご協力を賜り、被災地に住居用の仮設テントを設置する予定である。

■中国・河南省豪雨被災者緊急支援

◇**実施場所**：　中国・河南省
◇**実施期間**：　2021 年 7 月 25 日～ 8 月 19 日
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**：　日本河南同郷会、日本河南総商会
◇**事業内容**：


河南省归国华侨联合会

感谢信

特定非营利活动法人アムダ：

贵会的捐赠款已经收到。

我们将遵照捐赠意愿，将捐赠款（物）用于急需的援助项目。

大爱善行，惠之荣光。河南特大暴雨灾害发生后，海内外侨界组织和广大侨胞高度关注，纷纷响应行动，以不同的方式组织募款捐物火速救援河南，一份份爱心满江中原大地，凝聚成了救援救灾的侨界磅礴之力。为防风救援和灾区人民群众送去了及时有效的帮助，发挥了重要作用，生动体现了新时代华侨爱国爱乡的豪迈情怀和大爱精神。在此，我们谨向贵会表示最崇高的敬意和衷心的感谢！

"志合者，不以山海为远"，祖国和故乡永远牵挂海外侨胞。在疫情形势依然严峻的当下，希望贵会担当好桥梁纽带作用，为海外侨胞防疫抗疫，事业发展提供好帮助和支撑，确保好侨胞安全。河南省侨联也将更好担当"桥梁人"职责使命，携手海外华侨华人社团努力深化为侨服务质量水平，尽责做海外侨胞办实事、做好事、解难事。

再次向贵会致以最诚挚的敬意！

河南省归国华侨联合会
2021年8月19日

その後、河南省華僑聯合会、日本河南同郷会より感謝状をお送りいただいた。

河南省華僑聯合会からの感謝状の日本語訳は以下の通り。

感謝状

特定非営利活動法人
AMDA殿
貴組織はこの度の河南省
大規模洪水に対し
被災者支援と被災地復興
に貢献されました
その熱意と行動力を称え
ここに深く感謝の意を表
します

令和三年八月十六日
日本河南同郷会
会長　劉延軍

「この度は、貴機構からこころのこもった支援金いただきましたことを厚く御礼申し上げます。

私たちは、貴機構よりいただいた大切な支援金を被災者の方々の救済のために活用させていただいています。

河南省での災害発生直後から、国内海外の華僑コミュニティーまた幾つものボランティア団体より大変ご心配いただき、ご厚情あふれ愛がこめたお見舞いのお言葉をすぐさまいただいたばかりか、災害救援の支援金（資材）まで迅速に被災地まで頂戴しました。貴重なご寄付は、洪水の防災と救援、被災された方々が 1 日でも早く安心した生活を取り戻すため、重要な役割を果たしています。貴機構に衷心より敬意を表すとともにお礼申し上げます。

『志の合う者は山海をも遠しとせず』現在感染状況が依然として厳しい中、貴機構は良い架け橋となり、国内海外の支援分野の発展において、素晴らしい助けになると確信します。

河南省華僑聯合会も各華僑団体、国内海外の友人に支えられてながら、きっと難関を克服し、災害と感染症に勝ち取ることができると信じています。

改めて、貴機構の皆様に心から感謝を申し上げます。」

■インドネシア土砂災害被災者緊急支援活動

◇**実施場所**：　南スラウェシ州ルウー県
◇**実施期間**：　2021 年 10 月 5 日～ 10 月 9 日
◇**派遣者数**：　16 人（AMDA インドネシア支部、ムスリム大学 (Universitas Muslim Indonesia) 医学部、AMSA ムスリム大学支部など）
◇**受益者数**：　182 人
◇**事業内容**：

現地時間 10 月 3 日午後、インドネシア・スラウェシ島の南スラウェシ州ルウー県では豪雨により川の氾濫、複数の地域で鉄砲水や地すべりが発生した。127 人が亡くなり、一時期 12,000 人もの人が孤立する事態となった。

この深刻な状況を受け、5 日、AMDA インドネシア支部、ムスリム大学（Universitas Muslim Indonesia）医学部及

び AMSA ムスリム大学支部などから成る合同医療チーム 16 人（医師 2 人含む）を結成。医療チームは、同支部及び同大学のあるマカッサルを出発し、陸路で翌日 6 日に被災地のルゥー県に入った。同県副知事を訪ねたのち、ムスリム大学卒業生の地元医師と共に支援実施を決定。6 日及び 7 日は、被災地に医薬品や食料品、日用品などを贈呈する一方、ノースワレンラン地区の 2 カ所で合計 49 人の被災者の無料診察と治療にあたり、皮膚や急性の呼吸器系の症状、下痢や高血圧などの症状が見られた。

合同医療チームは 8 日に再びノースワレラン地区に戻り、医療支援が行き届いていなかった村のモスクの前など 2 カ所で無料診療を実施。その後、医療チームの情報を受け、チームの移動診療車を使ってボーン地区でも医療支援を行った。この日は合計 133 人を診察した。

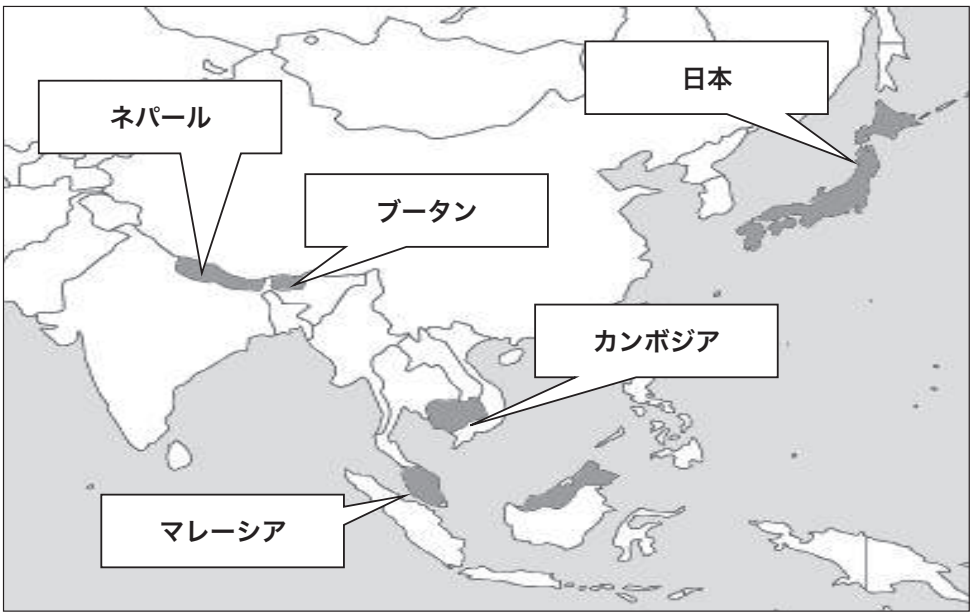
翌日 9 日、チームは副知事に活動終了の報告を行い、帰途についた。

■マレーシア洪水被災者緊急支援活動

◇**実施場所**：　マレー半島
◇**実施期間**：　2021 年 12 月 22 日～継続中
◇**現地で参加者を含めた事業チーム構成**：　NGO マーシーマレーシア
◇**活動内容**：

12 月 17 日よりマレー半島中央で降り続いた大雨により、マレーシアの 8 つの州で深刻な洪水が発生、町や村の一部が冠水した。報道によると 12 月 25 日の時点で死者 46 人、行方不明者数は 5 人である。今回の洪水は過去数 10 年で最悪の規模とも言われている。22 日 AMDA は、現地協力者らに連絡を取りながら情報収集を行い、現在、調整を進めている。

2.　新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援



■岡山県　新型コロナ感染症療養者一時療養待機所へ看護師を派遣

◇**実施場所：**　岡山県
◇**実施期間：**　2020 年 5 月 25 日～ 6 月 1 日、8 月 29 日～ 9 月 8 日
◇**派遣者：**　岡崎夏輝／看護師／ AMDA 緊急救援ネットワーク、橋本千明／看護師／ AMDA 職員
◇**事業内容：**

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、「第 4 波」「第 5 波」で岡山県が設置していた新型コロナウイルス感染症療養者一時療養待機所に、AMDA は岡山県の要請で看護師 2 人の派遣を行った。

県内では自宅療養者の数が増加、療養者の中には夜間に自宅や宿泊療養先で血中酸素濃度が下がり、発症して 1 週間ほど経過した段階で急激に悪くなる場合もあり、重症化リスクの高い療養者への対応が懸念されていた。待機所では療養者に対して酸素投与、ステロイド療法を行いさらなる悪化を防止し、翌日の適切な療養区分（必要に応じて入院や宿泊療養）につなげ、医療機関や救急の負担軽減を図った。

医療従事者や業務調整員は県内の医療機関や個人から広く募集され日替わりで勤務にあたった。前回の経験をもとにマニュアルの整備や改善が行われ、日々業務の流れや対応を全員で確認・整理し助け合いながら患者の療養をサポートした。一時療養待機所は、感染者数などの状況を踏まえ、9 月 13 日を以て一旦終了となった。

■沖縄県　新型コロナ支援高齢者施設支援活動

◇**実施場所：**　沖縄県
◇**実施期間：**　2021 年 6 月 1 日～ 7 日
◇**派遣者 ：**　1 人（看護師 / AMDA 緊急救援ネットワーク登録）
◇**事業内容：**

新型コロナウイルス感染拡大にともない、沖縄県は 5 月 23 日より緊急事態措置区域として追加された。県内でクラスターも発生し、医療者不足の状況だった。

5 月 25 日、AMDA は沖縄県より、高齢者施設への看護師派遣について要請を受けた。翌日より AMDA 緊急救援ネットワークなどで呼びかけを行い、看護師の派遣準備を開始。6 月 1 日より看護師 1 人を派遣した。AMDA 看護師は、県の指示の下、県内の高齢者施設に入り、入居者のバイタルサイン測定や食事などの介助、環境整備などに従事した。

■沖縄県　新型コロナウイルス感染症医療支援活動

◇**実施場所：**　沖縄県
◇**実施期間：**　2021 年 8 月 22 日～ 9 月末
◇**派遣者：**　4 人（看護師 / AMDA 緊急救援ネットワーク登録）
◇**事業内容**

緊急事態宣言中の沖縄県では新型コロナウイルスの感染の拡大が深刻な状況が続いていた。AMDA は、7 月下旬に沖縄県より看護師の派遣要請を受け、AMDA 緊急救援ネットワークなどで呼びかけを行い、8 月から 9 月末までに看護師を合計 4 人派遣。派遣

者は、沖縄県の指示のもと、県内の高齢者施設や、県が開設する新型コロナ感染症 相談窓口（コールセンター）へ派遣され、各所の業務に従事してきた。

そのうちの 1 人は活動終了後、「レッドゾーンでの医療支援の中で、地元の方々と共に活動出来たことに心から感謝しています。当初少しでも役に立ちたいとその一心でしたが、人々の今を乗り越えようとする力を感じながらとても勇気をもらいました。」と話した。

■沖縄県　新型コロナウイルス感染症医療支援活動（2022 年 1 月）

◇**実施場所：**　沖縄県
◇**実施期間：**　2022 年 1 月 17 日～ 22 日
◇**派遣者：**　1 人　（看護師 / AMDA 緊急救援ネットワーク登録）
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成：**AMDA 本部
◇**事業内容：**

2021 年末より沖縄県では新型コロナウイルス感染者数が急増し、クラスターも発生している。この深刻な状況を受け、沖縄県は AMDA に看護師派遣を要請。AMDA は 1 月 4 日、AMDA 緊急救援ネットワークなどで呼びかけを開始した。1 月 17 日より看護師 1 人を沖縄県へ派遣。AMDA から派遣した看護師は県の指示のもと、クラスターが発生している複数の施設で活動を行っている。看護師は、主に施設内のゾーニングなどの環境整備（レッドゾーンや濃厚接触者部屋などのマーキング、防護服装着場所の設置など）、施設職員を対象とした感染対策指導（手指消毒の徹底、防護具の装着方法、ゴミや残飯処理方法の指導など）などに従事している。また、PCR 検体採取や、入居者の体調を確認、必要に応じて保健所へ入院調整依頼を行った。

派遣を終えた看護師は、「今回の支援では、保健所で保健師やコロナ対応病院の医師と連日ミーティングを行いながらチームで連携し活動した。感染拡大のスピードがはやいので職場や施設、家庭での感染対策を正しく理解し継続できるようわかりやすく伝えることの重要性を改めて実感した。」と述べた。

■ネパール　新型コロナウイルス対策に資する物資支援

◇**実施場所**：　バグマティ州カトマンズ市／ルンビニ州ブトワル市
◇**実施期間**：　2021 年 5 月～ 7 月末
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**：
AMDA ネパール支部及び関連病院
◇**受益者数**：AMDA ネパール支部関連病院及びプロジェクトに関係する地域住民とスタッフ
◇**受益者の声**：
「緊急事態にすぐに対応していただき感謝します」と AMDA ネパール支部長からお礼の電話があった。
◇**事業内容**：

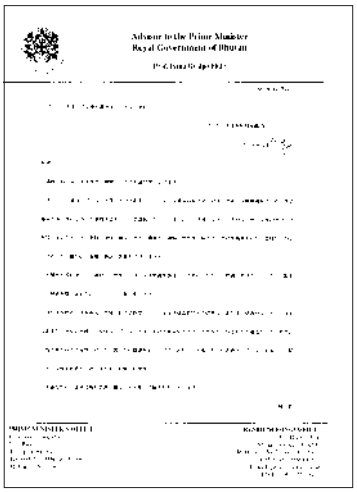
ネパールでは 2020 年 1 月 23 日に初めての感染者が確認されて以降、新型コロナウイルス感染者数は 621,056 人、死亡者数は 8,726 人（ネパール保健省、6 月 20 日発表）。2021 年 4 月末から第 2 波が起き、政府の病院や私立病院は新型コロナウイルス対応病院となりましたが、ベッドや酸素が不足し、死者が相次ぎました。医療崩壊の危機に対し、保健省から AMDA ネパール支部の病院にも対応するよう指示があった。5 月上旬に AMDA ネパール支部長から AMDA 本部に支援を求める電話があり、本部はすぐに応じた。

AMDA ネパール支部の病院のうち、AMDA ダマック病院とネパール子どもの病院は重症患者を受け入れる体制を整え、AMDA の支援で ICU で必要な資材を購入することができた。更に、軽症で自宅隔離する職員や住民らにマスクや消毒液、パルスオキシメーターや体温計などを提供。

尚、AMDA ネパール支部は 2020 年 2 月、AMDA 本部からの依頼に対し、20,000 枚のマスクを準備、中国と日本に発送した。

■ブータン王国　新型コロナウイルスに対応する支援

◇**実施場所**：　ブータン王国
◇**実施期間**：　2021 年 7 月 16 日～ 2021 年 12 月
◇**事業内容**：


Advisor to the Prime Minister
Royal Government of Bhutan

人口 75 万人のブータン王国は、2020 年 3 月に国内で最初の新型コロナウイルス感染者が報告されて以降、様々な感染防止対策を講じ、2021 年からはワクチン接種も積極的に実施することで感染拡大を防いでいた。しかしながら、今年 6 月に入り感染者数の急増に加え、インドや中国などの近隣諸国でも感染者数が増加していることもあり、更なる感染拡大の脅威に直面していた（7 月 15 日までの累計感染者数 2,380 人（WHO 発表））。

ブータン政府は、急増する感染対応に必要な個人防護具が不足する事態を受け、かねてから医療支援などで交流のあった AMDA に物資支援を要請。AMDA はこの要請に応え、感染対応に必要とされる個人防護具の支援を決定した。その後、在東京ブータン王国名誉総領事館と連絡をとりながら、医療ガウン 1,500 枚及び防護服 220 枚を準備、7 月 30 日総領事館が指定する送付先への発送を完了した。12 月にブータン王国首相特別顧問のペマ・ギャルポ様よりお礼状をいただいた。

■マレーシア　農村地域における新型コロナワクチン接種プログラム支援

◇**実施場所**：　マレーシア・サバ州ナバワン地区
◇**実施期間**：　2021 年 10 月～ 11 月 2 日
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**：　マーシーマレーシア（看護師 1 人、ボランティアスタッフ 5 人）
◇**受益者数**：　延べ 367 人
◇**事業内容**：

10 月初旬、AMDA は協力団体であるマーシーマレーシアにコロナ禍における現地の状況について伺った。夏には新型コロナウイルス感染拡大による都市封鎖の影響で、生活に困窮する人たちが支援を求め「白旗」運動が盛んに行われていたものの、今は運動も収まり、感染者数もかなり減少しているという状況、同時に、ボルネオ島に位置するサバ州の農村地域で行われている「新型コロナワクチン接種プログラム」について紹介があり、AMDA はこのプログラムに対する支援を決定した。

他の州と比較すると貧困率の高いサバ州は、地域によって交通手段が限られ、会場まで行くことができないため、農村部に住む住民はワクチン接種を受けられず取り残される可能性もある。村によっては、ジャングルを 3 時間ほど運転しなければならない地域もある。マーシーマレーシアは、サバ州保健福祉部が主導する農村地域ワクチン接種プログラムを支援するため、同州ナバワン地区に医療チーム（看護師 1 人、ボランティアスタッフ 5 人）を約 1 か月間派遣し、同地区の 20 カ所で 367 回分のワクチン接種を実施。目標としていたサバ州の接種率が成人人口の 80%に達したため、この支援活動は 11 月 2 日をもって終了した。

■カンボジア　新型コロナウイルス対応

①チェンラ大学へ新型コロナウイルス対策資材提供

◇**実施場所**：　首都プノンペン

◇**実施時期**：　2021 年 4 月

◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**：　AMDA カンボジア支部、チェンラ大学

◇**受益者数**：　100 人

◇**事業内容**：

チェンラ大学がある地域で新型コロナウイルス蔓延を防止するため、フェイスマスク、アルコール、消毒ジェル、自動アルコールディスペンサーなどをチェンラ大学に提供した。

②新型コロナウイルスワクチンチームへのサポート

◇**実施場所**：　オンラインなど

◇**実施時期**：　2021 年 6 月～ 7 月

◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**：　AMDA カンボジア支部

◇**受益者数**：　60 人以上

◇**事業内容**：

軍人ボランティアのワクチンチームと H.E Hun Many ボランティアチーム（フン・セン首相の息子 H.E Hun Many が設立したチーム）へ支援をした。プノンペンで重症化リスクが高い方を中心に新型コロナウイルスワクチン接種を実施している軍用ワクチンチームに対し資材の提供、予防接種の技術、管理方法のトレーニングを支援した。トレーニングは Zoom にて行われ、60 人が参加した。H.E Hun Many ボランティアチームに対し感染防止防護具、ミネラルウォーター、缶コーヒーなどを支援した。この活動は、チェンラ大学副学長の Y.Lima 教授とチェンラ大学秘書課長の協力により行われた。また、この活動はカンボジア青年連合会（Union of Youth Federations of Cambodia）が運営し、成功を収めている。

③コンポンスプー州の新型コロナウイルス対策センターへの支援

◇**実施場所**：　コンポンスプー州

◇**実施時期**：　2021 年 12 月

◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**：　AMDA カンボジア支部

◇**受益者数**

◇**事業内容**

この施設はコンポンスプー州病院の副院長であり、2005 年、2006 年にインドネシアで発生した津波災害の緊急支援に参加した経験もあり、AMDA カンボジア支部に長年携わっている Long Viseth 医師によって運営されている。感染対策防護具、アルコール消毒液、酸素マスク、ミネラルウォーター、缶コーヒーなど必要な資材の支援を行った。また、今回の活動には、AMDA カンボジア支部のプロジェクトに参加したことのある Mr. Khul Saroeun も参加している。

④チェンラ大学の学生ボランティアへのワークショップのサポート

◇**実施場所**：　オンライン

◇**実施時期**：　2022 年 1 月

◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**：

AMDA カンボジア支部、チェンラ大学、保健省関係者、国立病院関係者、学術関係者（登壇者）

◇**受益者数**：　100 人

◇**事業内容**：

AMDA カンボジア支部は、チェンラ大学（カンボジアの看護学校）と協力して、新型コロナウイルスの現在の状況における看護師の役割についてのワークショップを開催し約 100 人の学生（会場 30 人、Zoom 参加 70 人）が参加した。保健省、国立病院、学術界から講師が参加し、看護師の新しい役割やマスクやフェイスシールドなどの感染防止防具を適切に使用する方法、新型コロナウイルス蔓延防止対策など、プレゼンテーションを行った。ワークショップ後、AMDA カンボジア支部は感染対策防護具を看護学生と大学に提供した。

これらの支援は AMDA インターナショナルや山一観光からの支援、また日本で集まった募金が含まれており、感謝状も届いている。

2　災害支援事業　―復興支援活動―

■東日本大震災復興支援活動

◆健康及び生活・自立支援

① AMDA 大槌健康サポートセンター事業

◇**実施場所：**　岩手県上閉伊郡大槌町

◇**実施期間：**　2011 年 3 月 12 日～継続中

◇**従事者：**　佐々木賀奈子 /AMDA 大槌健康サポートセンター長、教室事業講師 2 人

◇**受益者数**（2021 年度）：　延べ人数教室事業　139 人、鍼灸　727 人

◇**事業内容：**

大槌地域の人たちを対象としたさをり織り教室、木工教

室は、コロナの状況をみて開催している。佐々木賀奈子さんは鍼灸師として、大槌地域の人々の鍼治療や食事アドバイスで健康の増進を図っている。東日本大震災以降、数多くの継続したご支援をいただいているおかやまコープ組合員様と1月3月に計3回オンライン交流会を実施した。AMDA大槌健康サポートセンター長の佐々木さんから大槌の現状や復興についてお話があり、さをり織りのティッシュケースづくりで各自オリジナルの手作りのぬくもりのある作品が完成した。

最後に組合員から大槌への質疑応答を通じて岡山と大槌町のつながりや絆が感じられた交流会となった。

◆生活・自立支援

①復興グルメF-1大会

◇実施場所： 宮城県気仙沼市　南町紫神社前商店街

◇実施時期： 通年

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

復興グルメF-1大会運営事務局実行委員長　坂本正人、菅原尚美

◇事業内容

「復興グルメF-1大会」は、2020年以降新型コロナウイルス感染症まん延防止のため、休止中。復興グルメF-1大会運営事務局のある気仙沼では、コロナ対策の上で定期的にイベントを開催している。3月は震災後11年目を迎える「3．11メモリアル」を行った。亡くなった方への追悼と復興の祈りと風化防止の願いをこめ被災商店街で鎮魂の黙とうをした。震災の教訓から備蓄の大切さを皆さまに伝えるよう備蓄食料を参列者に配布した。地域の方々には1年半前からコロナ支援食品配布を継続的におこなっている。3月は、コロナ支援食品を求めて、今までにないほどの多くの人たちが訪れ、コロナ禍の厳しさを感じた。

◇受益者の声：

「毎日の食費が大変なところ、月に1度食品配布をしていただき、助かっている。」

②仙台市震災ホームレス支援

◇実施場所； 宮城県仙台市

◇実施時期： 2013年～活動中

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成： NPO法人仙台夜まわりグループ

◇受益者数： 1,122人

◇事業内容：

仙台市内4カ所の活動場所で月12回路上生活者及び生活困窮者を対象に活動している。定期的な衛生改善事業としてシャワーと軽食を提供している。食事は、弁当、持ち帰りパック、おにぎりなどいろいろな方法で提供し、グンゼの肌着など支援品を随時配布している。約80人の方々の自立支援、生活支援を行っており、役所や公営住宅入居への手続きをお手伝いしたり、収入を得るための就労支援、スキルアップ支援により自分の道を切り開いていけるようサポートしている。

■ホンジュラス・ハリケーン被災者復興支援活動

◇実施場所： （小学校屋根改修）エル・パライソ県テウパセンティ市サラディーノ地区
（農業技術指導）エル・パライソ県テクシグア市アグア・カリエンテ村

◇実施期間：2020年11月17日～2021年8月末

◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成：**

AMDA ホンジュラス支部、テウパセンティ市サラディーノ地区保健委員会及び保健所、現地協力団体エル・パライソ県グイノペ市民環境保護団体

◇**受益者数：**（小学校屋根改修）生徒 37 人、先生 1 人
（農業技術支援）65 世帯及び 1 小学校

◇**受益者の声：**

（農業技術指導を受けられた方より）

「皆様に支援と知識を届けてくれたことを感謝いたします。これまでは焼き畑農業をし、化学肥料も使っていましたが、それが土壌を殺してしまっていることを知りませんでした。でも、今回、自然や生態系を生かして行う農業研修を受けてからは、化学肥料を使っておらず、収穫した作物も健康的なものとなりました。自分の家族で食べた後は友人に分けて、さらに余った作物は、売って収入にもなりました。この台風や新型コロナウイルスで危機的な状況の中、自分の家で食べ物が収穫できるということは、家族みんなにとって大きな喜びであり、幸せなことだと感じています。」

◇**事業内容：**

2020 年 11 月、ハリケーン「エタ」と「イオタ」が相次いでホンジュラスを直撃。死者数 99 人、466 万人以上が被災した（2020 年 12 月 3 日ホンジュラス政府発表）。駐日ホンジュラス共和国特命全権大使アレハンドロ・パルマ・セルナ閣下からの支援要請を受け、AMDA は特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構（以下、AMDA-MINDS）と合同で 11 月から 12 月にかけ、被災した世帯に対し緊急物資支援を行った。その後も現地協力団体らと協議を重ね、AMDA-MINDS と合同で、エル・パライソ県にて以下の復興支援を実施した。

①小学校屋根の改修（2021 年 3 月～ 6 月）

テウパセンティ市サラディーノ地区にある小学校は、ハリケーンの激しい雨で屋根が損壊、教室が水浸しになった。復興支援として改修を決定し、AMDA-MINDS 現地チームは同地区保健委員会と保健所、大工らとの打ち合わせや準備を進め、3 月下旬に改修工事を開始。そして 6 月 8 日、無事に完了した。

当時、新型コロナウイルス対策のため、この小学校の児童は週 1 回登校し、1 週間分の宿題の添削を受けている。小学校の教員は、工事終了後、「天井の改修工事をして下さり本当に感謝しています。改修工事をしてくれたおかげで、40 人の児童が良い環境で学習することができます。」と語った。

②**農業技術指導**（2021 年 2 月～ 8 月）

ハリケーンにより収穫間近であった主要作物がほぼ全滅してしまったこの村では、木を伐採しない、化学肥料ではなく有機肥料を用いるなど、自然の力を生かした「災害に強い菜園づくり」を目指した農業技術指導を開始。65 世帯は熱心に取り組み、この指導が終了する頃には、カボチャやニンジン、赤かぶ、豆、バナナやイモ類など、多種多様な作物が栽培、収穫されるようになった。

また、菜園づくりを開始した同村内の小学校では、この菜園で育ち収穫したキュウリや赤かぶを調理師、児童に提供することができるようになった。この菜園づくりのためホースも AMDA-MINDS 現地チームより受け取った学校の教員は、「ホースの寄贈により、これまでのように子どもたちが危ない思いをして川に水を汲みに行く必要もなくなったこと、そして子どもたちに栄養のある食べ物を提供できるようになったことで保護者も大変感謝をしている」と話した。

指導終了後も、現地協力団体が月 1 回程度、農家を訪問する予定。

■ AMDA ハイチ・歯科検診

◇**実施場所**：　フォンデネグレ　救世軍病院
◇**実施日**：　2022 年 2 月 12 日
◇**実施者**：　AMDA ハイチ支部　3 ～ 4 人
◇**受益者数**：　56 人
◇**実施内容**：
　2022 年 2 月 12 日、AMDA ハイチ支部が毎年恒例の歯科検診を同国フォンデネグレにある救世軍病院にて実施した。56 人の市民が参加し、口腔内の洗浄、抜歯、歯茎の病気などの治療を行った。受診者は大変満足したようだ。
◇**参加者の声**：
「生まれて初めて歯科検診を受診したがとても良かったので来年もまた来たい。」
「フォンデネグレには歯医者が無いためもっと頻繁に AMDA ハイチ支部に来てほしい。」

3　災害対応プラットフォーム

■ AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム概要

◇**実施場所**：　岡山県、香川県、徳島県、高知県
◇**実施期間**：　通年実施
◇**事業内容**：
　AMDA では、発生すれば死者 30 万人、300 万人が被災するとも言われる南海トラフ巨大地震への取り組みとして、「AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム」を 2015 年に設立。巨大地震が発生した場合に、孤立しやすい四国の徳島県・高知県に 10 チームが迅速に支援活動を行えるよう、自治体、医療機関、企業などが一体となり準備を進めている。連携協定を結ぶ自治体や医療機関、経済団体と緊密に連携し、
①食糧などの事前備蓄　当初備蓄品のローテーションと合わせて備蓄品の見直し
②支援に駆けつける医療機関と支援に入る徳島県・高知県の自治体との事前マッチング、事前交流、訓練を通じての交流
などを実施。
　2021 年度も昨年に続き、コロナウイルス（COVID-19）の感染状況が続き多くのイベントや訓練などで人が集まる事が延期や中止となったが、コロナ対策を行いながら開催された高知県高知市（一部中止）、徳島県阿南市、岡山県総社市での訓練に参加した。

【訓練】

日程	訓練名	活動内容　＊敬称略
10/31	高知県高知市主催 「令和 3 年度高知市 総合防災訓練」	訓練会場「泉野小学校」のグランドにテントを張ってパネル展示での参加予定をしていたが、前日の雨天でグランドの利用が中止となり、体育館の訓練のみ開催となり訓練の見学を行った。
11/28	徳島県阿南市主催 「令和 3 年度四国の 右下防災旬間関連事業 （避難所開設・運営訓練）」	前日に事前交流を行い、訓練では美馬市から阿南市までの移動の途中にチェックポイントを設けて本部との通信訓練を行い、本訓練では阿南医師会と協力して救護所での医療訓練を行った。

2/22	岡山県総社市主催 「令和３年度総社市防災訓練」	総社市の防災体制と地域防災力の強化を図るために開催された。 AMDA からは調整員２人が参加し、災害対策本部運営訓練に１人、緊急避難所開設訓練の救護所設置に１人が参加した。

【事前交流】

日程	訪問者	活動内容＊敬称略
11/27	茅野市・原村・諏訪市の 組合立 諏訪中央病院	茅野市・原村・諏訪市の組合立 諏訪中央病院より、医師１人、看護師２人、ロジ１人の４人が参加され翌日の訓練前に事前交流として訪問先の医療機関で院長と面会し徳島県内での医療体制や病院の状況について交流を行った。

【勉強会など】

日程	名称	活動内容＊敬称略
5/21	高知県協議会 オンライン開催	１）AMDA からの確認・報告事項 ①「兵庫県養父市との協定に向けて」について ②「内閣府からの話」について ③黒潮町の学生と AMDA 中学高校生会の交流 ④今年の予定（交流会） ⑤コロナ禍で AMDA に寄せられた支援物資を関係する配布報告 ⑥コロナ禍での支援活動について質問 ２）市町村からの報告事項 高知県、高知市、須崎市、黒潮町より各担当者が参加された。
12/7	倉敷中央病院の勉強会に 参加	倉敷中央病院内での FMS・防災対策委員会主催の講演会に総合診療科　國永直樹　先生より紹介で参加した。 徳島県美波町の紹介（倉敷中央病院のマッチング地域）、スフィア基準の紹介
1/9	徳島災害時対応研究会 第９回研修会に参加	医療法人芳越会 ホウエツ病院の林先生からの紹介でオンライン参加した。
2/8	倉敷中央病院の勉強会 に参加	倉敷中央病院内での FMS･防災対策委員会主催の「美波町災害派遣推進グループ講演会」に総合診療科　國永直樹　先生より紹介があり、南海トラフ災害対応プラットフォーム協力医療機関で徳島県にマッチングされている医療機関にも案内を送って徳島県に支援に入る医療機関との連携交流の場として参加した。
2/24	徳島県西部災害医療 Web セミナーに参加	医療法人芳越会 ホウエツ病院の林先生からの紹介でオンライン参加した。
3/11	赤磐市パネル展示	赤磐市主催の高月公民館主催防災講座でパネル展示の依頼があり、 東日本大震災時のパネル貸し出しを行った。

4　その他

■駐日大使館・関係機関お米贈呈

◇**開催場所**：　駐日大使館・総領事館など
◇**開催時期**：　2021 年 12 月頃
◇**贈呈機関数**：　23 カ所
◇**事業内容**：

AMDA は毎年感謝の意を表し AMDA 海外支部のある国や地域、AMDA が活動を行っている国の駐日大使館・領事館をはじめ協力関係にある関係各所へ有機米を贈呈している。このお米は 2012 年に AMDA が「食は命の源」をコンセプトにアジアに有機農業を普及することを目的に AMDA フードプログラム事業の一環として岡山県真庭郡新庄村で有機栽培を続けているもので、秋に収穫されたばかりのお米である。

コロナ禍前までは関係機関を訪問していたが、昨年に引き続きコロナウイルス感染拡大のため、今年も郵送にて有機米とともに活動報告書、各 AMDA 海外支部長からの手紙を添えて 23 の機関へ送付した。

11 月に AMDA 事務所へ来訪されたフィリピン共和国 ヴォルテール D. マウリシオ総領事ご夫妻には直接お米を手渡すことができた。

受け取った駐日大使・総領事からは、「コロナウイルスがまん延して苦しい時期ではあるが、困難にも負けず、今後も両国の協力関係を維持し、災害支援や人道支援を共に行っていきたい」とのお言葉をいただいた。

■感染症対策の専門家をパプアニューギニアに派遣

◇**実施場所**：　パプアニューギニア国ポートモレスビー
◇**実施期間**：　2021 年 12 月～ 2022 年 2 月
◇**派遣者**：　萩谷 英大 ／ 医師 ／ 岡山大学病院
◇**事業内容**：

2021 年 12 月から 2022 年 2 月中旬まで、岡山大学病院は、WHO のフォーカルポイントである AMDA を通じ、萩谷英大医師をパプアニューギニアに派遣した。GOARN とは世界各地で感染症が発生した際に専門家を派遣する枠組みで、WHO とそのパートナー機関が中心となって運営されている。

今回の派遣は、現地医療機関や当局の医療部門と協力して、医療従事者を対象に基本的な感染対策指導やワークショップを行うことが目的であった。一方、パプアニューギニアはこの時期長期休暇期間にあたり、また現地特有の組織構造も手伝って、計画の変更に適宜対応せざるを得ない結果となった。そんな難しい状況の中、萩谷医師は、政府発行の感染症対策ガイドラインに関して、専門家の見地から助言を行い、この点に関しては一定の成果をあげることができた。

健康増進

AMDA ピースクリニック（APC）　豆をもらった子ども

AMDA ピースクリニック（APC）　妊産婦検診の様子

1　プライマリーヘルスケア事業

■インド・ブッダガヤ AMDA ピースクリニック母子保健事業

◇**実施場所**：　ビハール州・ブッダガヤ地区
◇**実施時期**：　2009 年 11 月～継続中
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**：　AMDA ピースクリニック（以下 APC）
◇**受益者数**（2021 年度）：　延べ 1,683 人
◇**受益者の声**：

「APC はブッダガヤだけではなく、マスティプールとピパラパティ地域に住む妊婦さんの健診を無料でして下さるのでとても助かっている。妊娠中に私立のクリニックに高いお金を払って診てもらうことができない貧しい人々は APC で健診を受けられ、母子ともども元気に出産できることはとても嬉しく思っている。

今は都市封鎖が解除されたため、現地の人々が移動のためにオートリキシャを使用するようになり、封鎖中に比べると収入が少し増えたが、家族のニーズを満たすことはできていない状況である。こんな状況の中、AMDA からの食糧支援をいただけることはありがたく思っている。」

◇**事業内容**：

2021 年 4 月に入ってから、新型コロナウイルス感染がインドで再拡大していた影響により、AMDA ピースクリニックは 4 月下旬から 7 月上旬にかけて一時的な閉鎖を余儀なくされ、対面で行う必要がある食糧支援は一時的に中断。一方、クリニックに掛かるお母さんたちからの相談には、現地スタッフが電話で対応し、必要があれば地元医師の診療を勧める体制をとるなど、支援を継続して行った。ビハール州における都市封鎖が段階的に解除された 7 月 5 日から AMDA ピースクリニックは、毎月 1 回行う食糧支援と月 2 回行う妊産婦健診を再開。

新型コロナウイルス感染症の拡大が始まって以来、ビハール州ブッダガヤでも失業者が急増し、食糧の価格高騰もあり、特に農地を持たない人は食糧を手に入れるのも困難な生活が 1 年以上続いていた。9 月からは食糧支援の回数を月 1 回から 2 回に増やし、妊産婦世帯を対象にインドの家庭料理に欠かせないジャガイモ、ダル、ひよこ豆、塩、調理油を配布しました。加えて、政府からの支援を得られない世帯には小麦あるいはお米を追加で手渡した。

2021 年度は延べ 683 人の妊婦さんが検診を受け、延べ 1,000 人の妊産婦世帯に食料支援を行った。

最後に、2017 年度からグンゼラブアース倶楽部様より提供いただいているショーツを、APC 利用登録時と出産報告時に各 2 枚ずつ、妊産婦に提供している。

2　医療支援事業

■ルワンダ学校保健

◇**実施場所：**　ルワンダ・キガリ及びギクンビ地区
◇**実施期間：**　2020 年 11 月 1 日～ 2021 年 9 月 30 日
◇**派遣者：**　なし
◇**受益者：**　406 人
◇**事業内容：**

福島の NPO 法人、ルワンダの教育を考える会の要請で特に保健医療分野の支援を続けてきた。最終的な目標としてルワンダへの母子手帳導入を目指しているが、すぐに導入が難しかったため、まずは学校において継続的に子どもたちの健康状態を確認する学校健診という考え方を広め、いずれ国内での母子手帳の導入につなげたい意向である。

AMDA は学校保健分野の知識・技術支援を同団体より求められており、特に学校健診について 2015 年以降サポートしてきた。しかし 2020 年は COVID-19 の流行によりルワンダもロックダウンとなり、学校が長期休校となった。学校再開において基本的な感染対策、子どもの精神面のケアなど、様々な問題が起こりつつあった。日本からの派遣は行えなかったため、ルワンダの教育を考える会への業務委託として、ルワンダにおいて専任の学校保健看護師（養護教諭）を採用し活動した。活動内容は、生徒と職員への健康管理、健康診断の実施、医療機関への紹介、学校関係者や家族、地域の医療関係者の連絡、村の 5 歳以下の子どもの栄養状態の改善などであった。

学校の先生の声「学校に看護師がいることはとても助かります。高熱を出したり、何度も倒れたりと、さまざまな健康上の問題を抱えていた子どもたちがいたからです。」

3　友好病院事業

■ネパール友好病院

日程	病院名	場所 （2021 年度）	患者数 （2021 年度）	活動内容
2008 年～ 継続中	ネパール AMDA メチ病院	ネパール ジャパ県メチナガル市	延べ 約 4,800 人 以上	【現地での参加者を含めた事業チーム構成】 AMDA ネパール支部 【診療科】 一般科 【スタッフ数】 20 人（うち医師 3 人、看護師 3 人） 【これまで】 2008 年：在ネパール日本大使館、メチナガル市役所、商工会議所の支援によって設立 2015 年：臨床検査技師のコースを開始 現在は、AMDA ネパール支部、市役所及び商工会議所の共同プロジェクトとして運営 　メチナガル市民だけでなく周辺の村々に住む住民が怪我や一般的な疾患のためこの病院を受診、2021 年度は一般外来及び救急外来などで医療サービスを提供した。
1992 年～ 継続中	ネパール AMDA ダマック病院	ネパール ジャパ郡 ダマック市	延べ 95,000 人 以上	【現地での参加者を含めた事業チーム構成】 AMDA ネパール支部 【診療科】 麻酔科、一般科、外科、産婦人科、小児科、放射線科、整形外科医、耳鼻科、歯科、眼科 【スタッフ数】 225 人（うち医師 32 人、看護師 70 人） 【これまで】 1992 年：AMDA ネパール支部を実施主体として、メチ県ジャパ郡ダマック市でブータン難民と地元双方の医療支援の対象として開設。 1996 年：病院の付属施設として、AMDA 健康科学学院（AMDA Institute of Health Science) が設立。この学院では看護師コース、医療補助師コース、準助産師コース、地域医療補助師コース、臨床検査技師コースを実施しており、毎年各コースに 40 人の学生が入学し合計 200 人の学生が勉強している。 2005 年：日本大使館からの支援で学院の建物を建設。 2016 年、岡山済生会総合病院にて研修を受け、その後ダマック病院にて佐藤拓史医師（AMDA 理事）による研修を受けた同病院内科医のディワス医師を中心に内視鏡検査も実施、早期のがんを発見するなど、地元の方々の健康維持に貢献している。必要に応じて近辺の村でモバイル医療支援を実施している。 2017 年：在ネパール日本大使館の草の根・人間の安全保障無償資金協力により、ICU ユニットの増設が完成、診療を開始。 【今年度の活動内容】 救急外来と入院患者を含む外来患者数は延べ 9 万 5 千人以上、年間分娩数は約 5 千人以上。
1998 年～ 継続中	ネパール シッダールタ母と子の病院 （通称：ネパール子ども病院）	ネパール ルパンデ郡 ブトワル市	延べ 45,000 人 以上	【現地での参加者を含めた事業チーム構成】 AMDA ネパール支部 【診療科】 産婦人科、小児科、新生児科 【スタッフ数】 181 人（うち医師 22 人、看護師 68 人） 【これまで】 1998 年 11 月　阪神淡路大震災後の日本とネパールの多くの支援者の協力により設立された、首都以外では唯一の母子専門病院。設計は安藤忠雄建築事務所がボランティアで協力。 2011 年 8 月：新たな周産期病棟の建設を開始、翌年 11 月に完成。新病棟では陣痛室、分娩室、産褥室、手術室、家族計画カウンセリング室、新生児集中治療室などを備え、妊娠・出産から新生児ケアを総合的に管理できるよう配慮している。 【今年度の活動内容】 延べ 4 万 5 千人以上の外来患者、入院患者や救急患者が診療を受け、毎日平均 8 人の子どもがこの病院で誕生している。今年度は約 2,776 人の子どもが誕生した。"

■新型コロナウイルス対応した AMDA ネパール支部職員への緊急支援

◇**実施場所**：　ネパール国内
◇**実施時期**：　2021 年 10 月
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**：
　AMDA 本部、AMDA ネパール本部及び関連病院
◇**受益者数**：　516 人
◇**受益者の声**：
「パンデミックの中コロナ感染者の治療にかかわることができたことは誇りに思っている。コロナ感染者の治療にかかわるということはとても挑戦的で危険な仕事だった。このような大変な状況の中治療にかかわったスタッフたちに AMDA 兵庫と AMDA 本部から食料支援をいただき、菅波代表はじめ AMDA 本部 AMDA 兵庫の皆様に感謝の敬意を表したいとお礼状が届いた。」
◇**事業内容**：
　ネパールでは 2020 年 1 月 23 日に初めての感染者が確認されて以降、新型コロナウイルス感染者数は 978,982 人、死亡者数は 11,952 人（ネパール保健省、2022 年 5 月 12 日発表）。ネパール政府は、コロナの感染拡大を抑えるために国内でのロックダウンを繰り返して実施した。
　2021 年 4 月末から第 2 波が起き、政府の病院や私立病院は新型コロナウイルス対応病院となったが、ベッドや酸素が不足し、死者が相次いだ。医療崩壊の危機に対し、保健省から AMDA ネパール支部の病院にも対応するよう指示があり、AMDA ネパール支部の病院のスタッフはコロナ感染者の治療にかかわった。
　2021 年 9 月に AMDA 本部は AMDA 兵庫と共同で新型コロナウイルス感染拡大期間中に直接や間接的に感染者の治療に医療現場で従事したスタッフのたゆまぬ努力への感謝のしるしとして、医療現場などで従事した、AMDA ネパール支部のすべての従業員（AMDA ダマック病院、シッダールタ母と子の病院、AMDA メチ病院、AMDA ネパール事務所やプロジェクトに関わる）スタッフ 516 人に 1 人当たり 3,000 円分の米、豆、油、塩、砂糖などの食料物資を贈呈した。

教育支援

AMDA 中学高校生会
ギニアビサウ共和国への文房具を送る岡山県総社市の取り組みに参加

AMDA 中学高校生会
バングラデシュの学生とのオンライン交流会

AMDA こども食堂プラットフォーム

1　グローバル人財育成事業

■ AMDA 中学高校生会

概要

◇**実施場所**：　岡山県岡山市

◇**実施期間**：　1995 年～継続中

◇事業内容：

AMDA 中学高校生会 (以下、中高生会) は 2021 年度、県内中学生高校生 36 人県外 3 人合計 39 人のメンバーで活動した。2020 年度に引き続き、新型コロナウイルス感染予防のため、リーダー、副リーダーを中心にオンラインにて定例会を実施。活動の計画や具体的な内容に関する話し合い、活動後の振り返りなどを行った。

① AMDA 中学高校生会と黒潮町中学生・高校生の交流事業

◇**実施場所**：　オンライン（AMDA 事務所など）

◇**実施日**：　2021 年 8 月 24 日（13:30~15:45）

◇**参加者**：　中高生会 7 人、黒潮町立佐賀中学校、大方中学校、高知県立大方高校 合計 14 人、他、坂本正人氏 (AMDA 参与・気仙沼市南町紫神社商店街事務局長)、林篤志氏 (AMDA 緊急救援ネットワーク登録鍼灸師)、常原拓真氏 (AMDA 学生会リーダー) 、AMDA 職員 3 人

◇**事業内容**：

2017 年より毎年実施している黒潮町の中学生高校生との交流会だが、2020 年度に引き続き、今年度もオンラインで実施した。

今回は、宮城県気仙沼から坂本正人氏にご登場いただき、10 年前に起こった東日本大震災時の様子について当時の様子やこれまでの復興の様子についてご講演、大災害時、地域のコミュニティの中でリーダーを中心にそれぞれが役割分担しみんなで助け合っていくことの大切さなどをお話いただいた。

その後、中高生会からの活動報告、そして黒潮町の 3 校から各校の防災活動の取り組みについて発表があった。さらに大方高校からはオリジナルな HUG（避難所運営ゲーム）を制作され、実際に活用しているものご紹介いただき、災害時に備えるのに参考となった。

◇**参加者の声**

・「発表だけでなく、お互いの意見交換がありよかった。災害の怖さを共有しなければならない。坂本さんの言われていたことだが、風化が始まっているなど反省点に危機感を感じ、未来に生かさなければならない。地域内で助け合う必要を感じている。」（中高生会）

・「今日のリモート交流会を通して、みんな、自分たちで工夫して防災に対して向き合っているんだなと思いました。今、コロナ禍の中でできる活動は少ないですが、自分たちのできることを探して取り組む姿勢がよかったです。自分たちの学校の取組を知るだけじゃなく、他の中学校や高校の意見も聞くことで、私たちのこれからの活動に生かそうと思いました。」（大方中学校）

・「今回の交流を通して、防災委員会として、より安心でき、地震津波犠牲者ゼロの町づくりを進めていきたいと思いました。子どもから高齢者まで、町にいる人がもっと避難しやすい町になるように今回の交流で話したことや聞いたことを活かしていきたいと思いました。今回は貴重なお話をありがとうございました。」（佐賀中学校）

・「今回の交流会を通して知ることができたのは、今まで私にはなかった新しい考え方です。それは、支援される側にもプライドがあるということです。災害が起こった時、避難してきた人たちにもプライドがあると思うので、避難所運営

に活かすことができる考えだと思いました。今日学んだことは、これから地域学の授業でも活かすことができると思います。実際災害が起こった時には、相手のプライドや気持ちを考えて行動しようと思いました。」（大方高校）

②ギニアビサウ共和国へ文房具を送る取り組み

◇**実施場所：**　岡山県内など

◇**実施期間：**　2021 年 9 月下旬～ 10 月 25 日

◇**参加者：**　中高生会メンバー

◇**活動内容**

岡山県総社市がアフリカ・ギニアビサウ共和国代表のオリンピック選手の事前キャンプをホストタウンとして支援されたことがきっかけで、9 月、総社市が同国へ送る文房具の募集を開始。中高生会もこの取り組みへの協力として、文房具の寄付を募った。

10 月 8 日、AMDA スタッフが岡山駅西口連絡通路に立ち、定期的に活動をご報告する「まちかどトーク」にも中高生会メンバーが参加し、文房具の寄付を呼びかけた。同月 25 日に寄付を締め切り、27 日、中高生会鈴村宙巧リーダーから片岡聡一市長へのメッセージを添え、集まった文房具を総社市職員にお渡しすることができた。

12 月 22 日、中高生会は片岡市長より「ギニアビサウの子どもたちへ必ず文房具を渡します。」という言葉とともに、感謝状を受け取った。鈴村リーダーは「自分たちの取り組みがこのような形で評価され喜んでいただけたことは今後の活動の励みになります。」と話した。

③ AMDA 平和構築プログラム『オンラインによるバングラデシュと日本の学生による平和構築プログラム』

◇**実施場所：**　オンライン（AMDA 事務所、バングラデシュ　ダッカなど）

◇**実施日：**　2022 年 2 月 27 日

◇**参加者：**　中高生会 6 人、バングラデシュ学生 8 人　AMDA 学生会 4 人、
通訳 1 人 AMDA バングラデシュ支部、AMDA 関係者

◇**活動内容**：

2020 年に AMDA バングラデシュ支部の協力のもと、現地を訪問し平和構築活動を展開する予定したが、新型コロナウイルス感染拡大などのため海外訪問ができなくなり、2021 年 2 月にオンラインで交流会を実施。2021 年度も海外渡航ができないため、引き続きオンラインによる平和構築プログラムを行った。

当日は各国の活動紹介の後、日本からは折り紙や歌の披露、バングラデシュ側からは、国花や文化遺産を紹介。そして「ジェンダー平等」「貧困」「災害」をテーマに各々の考えを共有し、意見交換を行った。すべてのプログラムは原則英語で実施したが、意見交換のセッションでは、中高生会に内容の理解を深められるよう、学生会のメンバーが日英の訳を入れた。結果として積極的な意見交換を行うことができた。言語、文化、社会、環境など全く異なる国で生活している学生たちが平和構築のため自分たちができることを考え、お互いを刺激し合えた交流会となった。

◇**参加者の声**

（中高生会）

・「今回のフォーラムは私にとって、とても学ぶべきものが多かった様に思います。事前準備の段階から、バングラデシュと日本の学生では考えが大きく異なるだろうと思っていましたが、予想を遥かに超えた社会や貧困問題、そして彼らの

意識の高さに驚かされました。同時に、自分の見ていた世界がいかに主観的であったかにも気付くことが出来ました。」
・「私は、平和は 1 人では解決できないと考えているため、このような、国境を越えて平和について語り合うことで、世界に少しでも届けられる、広められるのではないかと考えました。この交流をもとに、自分の考える平和について客観的に見つめ直し、少しでも多くの人に耳を傾けてもらえるような、広まっていくような意見にできたらなと感じました。」
（学生会）
・「私は AMDA 学生会として会に参加し、AMDA 中学高校生会の事前の準備や当日の司会進行などを主に行いました。プログラムの参加は昨年度に引き続き 2 度目となるため、前回の反省点を活かし、その場で当日意見交換するだけではなく事前にディスカッションのテーマを設定しより深く考えられる期間を設けました。そのため当日はスライドを用いて意見交換ができ、また 3 名の大学生の通訳を交えスムーズにディスカッションが行え、非常によかったと感じました。このような国内外の同世代と繋がれる機会を設けてくださり、感謝申し上げます。」
（バングラデシュの学生）
・「平和構築とは、人々が話し合い、関係を修復し、そして慣習を改善することを促す、長期にわたる手段です。日本とバングラデシュの生徒が平和な未来を作り上げようと試みる AMDA の平和構築プロジェクトも、この一手段と言えます。平和構築における男女の権利、災害などの点は、調和のとれた生活を実現するにあたってとても重要になります。このプロジェクトに関われたことは、私にとってたいへん素晴らしい経験となり、私はたくさんの貴重なことを学ぶことが出来ました。最後に、「平和は笑顔から始まる」という言葉をもって、終わりとしたいと思います。ありがとうございました。」

2　こども食堂支援プラットフォーム

■ AMDA こども食堂支援プラットフォーム

◇**実施場所**：岡山県内
◇**実施時期**：通年実施
◇**事業内容**：
　2017 年 12 月、産官学民で組織する「AMDA こども食堂支援プラットフォーム」を設立し 2021 年度も継続して支援を行った。こども食堂への支援は食材の提供だけでなく、子どもたちが将来社会参加できる機会や環境を整え、子どもの意欲形成に繋げる活動を目指している。こども食堂の運営に取り組む希望団体へ次のような活動を行った。

①ミニカップゼリー配付
◇**実施場所**：　岡山県内
◇**実施日**：　2021 年 4 月 30 日
◇**受益者数**：　14 団体（延べ 272 袋（30 人× 14 団体＝ 420 人））
◇**活動内容**：
　株式会社コンケン様と中国銀行様との共同社会貢献として、ミニカップゼリー 272 袋の寄贈を受け、希望されるこども食堂 14 団体へ配付した。

◇**受益者の声**
　受け取った方から「子どもたちがゼリー好きなので嬉しい」という感想をいただいた。

②お米の配付
◇**実施場所**：　AMDA 本部・きらめきプラザ
◇**実施日**：　4 回（2021 年 6 月 18 日、9 月 24 日、12 月 17 日、2022 年 3 月 25 日）
◇**受益者数**：　15 団体

◇**活動内容**：

AMDA 支援農場の皆様よりお米の寄贈、NPO 法人フードバンク・グッドフェイス様からかまぼことお米の寄贈、ハーモニーライオンズクラブ様より食品、福電資材株式会社様より英語教材、株式会社オーディナーレ様よりたけのこご飯の寄贈を受け、配布した。

こども食堂から「2021 年 12 月ごろ、子どもたちにコロナが広がりましたが、年度末と年度初めに手作りのお弁当を提供することで保護者の方たちに喜ばれました。一方子どもたちは開催を待ちわびていることも聞き、開催できる日を祈っています。」

こども食堂では、お米を利用した手作り弁当（写真のタコライスなど）を子育て世代や困窮家庭にスープやサラダつけて配布した。

3　その他

■令和 3 年度岡山県 WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業「Well-being フォーラム」事前セミナー

◇**開催場所**：オンライン

◇**開催日**：2022 年 2 月 12 日、3 月 5 日

◇**参加校**（敬称略）：

＊カリキュラム開発拠点校

岡山県立岡山操山中学校・高等学校

＊事業連携校

岡山県立岡山一宮高等学校、岡山県立岡山城東高等学校、岡山県立岡山工業高等学校、岡山県立倉敷天城中学校・高等学校、岡山県立倉敷中央高等学校、岡山県立玉島高等学校、岡山県立津山中学校・高等学校、岡山県立和気閑谷高等学校、岡山県立岡山大安寺中等教育学校、Sacred Heart College 高校（オーストラリア）

◇**事業協働機関**（敬称略）：

岡山大学、岡山県立大学、岡山県経済団体連絡協議会、ベネッセコーポレーション、JETRO 岡山、JICA 中国、岡山県、岡山市、AMDA

◇**事業内容**：

文部科学省の採択事業として、岡山県教育委員会は、「未来の岡山と世界の Well-being※の実現に貢献するグローバル・リーダーの育成」を目的とした WWL コンソーシアム構築支援事業を実施した。これは、岡山県操山中学校・高等学校を拠点校として、その他 9 校の県立高校と県立中等教育学校、海外姉妹校 1 校がネットワークを作り、岡山県下の大学、自治体、企業、NGO と連携しながら、高校生自らが考え、学び、主体的に行動し、責任を持って社会変革を実現していく力を備えたグローバル・リーダーの育成を目指している。参加生徒は、課題研究などに取り組み、相互交流などを通じて、すべての人が身体的、精神的、社会的に幸福 “Well-being” な社会の実現のための方策について探究した。

この事業の一環として、2 月 12 日、AMDA 理事、佐藤拓史医師が、オンラインでつながった拠点校、連携校の高校生たちに “Well-being” と題し講演を行った。佐藤医師が生徒たちにそれぞれの経験の中で「想像力と深く考えることの大切さ」を伝えた。また、「人生は選択肢に溢れている」「思い込みを越えたところに新しい可能性が広がっている」「人生の最期までどのように生きるかは自分で決められる」というメッセージも込められていた。

また、3 月 5 日にオンラインで行われた、『Well-being フォーラム』では、午前中の課題研究発表会に続き、AMDA

菅波代表が「『限りなき挑戦、夢を求めて海外に舞い立つ』～多様性　の共存は総論（普遍性）を前提に、ローカルに考えグローバルに活動をする～」と題して、基調講演を行った。「多様性の共存」というAMDAの活動理念の下、人道支援の三原則に加え、プロジェクト実施の三原則「開かれた相互扶助」「パートナーシップ」「ローカルイニシアチブ」について、様々な国や地域での支援活動を紹介し、「知識は他人の経験に過ぎない、充実した人生を生きるためには知識を超えた『知恵』が必要。知識を『知恵』に昇華するために大切なのは経験だ」と語った。

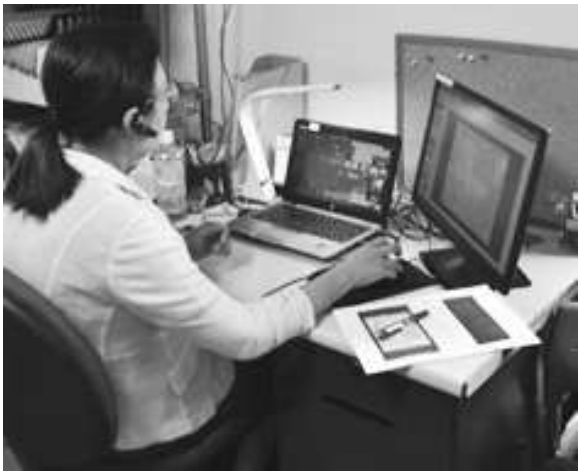
※ Well-beingとは、WHOが定義した「健康」を指す事例が多く、「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。（日本WHO協会訳）」という意味を持つ。

◇**参加者の声**：

・「相手の立場を考えて自分が思う幸せを願ったつもりでも、幸せの物差しは本当にその人の立場に立ってみないと分からないのだと思いました。だからこそ、佐藤先生が現場に行くことは本当のニーズを探す姿勢なのだと実感しました。」

・「講演を聞き、困っているから助けるなどの単純な理由ではなく、「なぜ？」という説明をきちんと伝え、自分は裏切らない、逃げないという意思を伝え、信頼関係を深めた関係を大切にしていきたいと思いました。コミュニケーションを大事にし、相手が持つ価値判断を理解することで多文化共生を目指していきたいです。そのための経験を大切にし、知識を知恵に昇華していきたいです。」

■災害への備えについてネパールのAdrasha Vidya Mandir学校の生徒を対象に講義



◇**開催場所**：　オンライン

◇**開催日**：　2021年7月20日

◇**参加者**：（AMDA 本部）アルチャナ　シュレスタ　ジョシ／Adrasha Vidya Mandir学校

校長先生、教員、生徒、親約220人

◇**参加者の声**：

Adrasha Vidya Mandir学校の校長スジャータ先生より、「ネパール地震の時パニックになって大けがをしたり、命を落としたりした方々が多くいました。今日の講義で事前の備えをきちんとしておけば、災害が起きた時にパニックにならずにスムーズに行動ができることが分かったので定期的に防災訓練や防災リテラシーに力を入れていきたいと思った。今後も引き続き災害への備えについて講演をしていただきたい」とコメントをいただいた。

◇**事業内容**：

2015年、ネパールは大きな地震に襲われ甚大な被害を受けた。地震で多くの学校施設が全半壊した。ただし、地震が発生したのは学校が休みだった土曜日の昼間だった為、学校内での人的被害はなかった。

ネパールの教育機関は、地震前の防災意識の低さを反省し、防災教育の必要性を強く認識し、学校内で防災訓練を行うようになった。しかし、2019年末からの新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、現在は外出などの行動

制限措置（ロックダウン）が実施され、授業はオンライン中心で行っている。したがって、集団での防災訓練は未だ実施されていない。しかし、災害はいつ起きてもおかしくないと考えたAdrasha Vidya Mandir 学校のスジャータ校長からAMDA スタッフに1通のメールが届いた。メールの内容は「小学6年生、中学1・2年生の生徒を対象に地震の備えについてお話をしてほしい」とのことだった。この、メールを受け取ったネパール出身のスタッフが若者に自分の経験を伝え、彼らが学んで考えてもらうことは今後の彼らの成長につながると考え、その依頼を快く引き受けた。

2021年7月20日はAdrasha Vidya Mandirのスジャータ校長はじめ、教員、生徒、保護者を含む220人がZOOMによるオンライン授業に参加してくれた。授業の内容はAMDAの相互扶助の理念に基づく活動について、そして地震への備えについて話をした。

■インド・ブッダガヤにある学校の生徒にAMDA賞を授与

◇**実施場所**：　インド・ビハール州・ブッダガヤ
◇**実施日**：　2021年12月25日
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**：
AMDA賞委員会5人、ジーナアミタッブ無償寄宿学校
◇**受益者数**：　10人
◇**受益者の声**：
「ジーナアミタッブ無償寄宿学校で10年生まで勉強し現在は学校の支援を頂き大学でグラフィックデザインの勉強をしています。グラフィックデザインは相手にメッセージを伝えたり、アイデアを思い浮かばせる素晴らしい学問だと思います。

現在アルバイトなどして少し収入はありますが、今回、賞をいただいて勉強に使う時間が増えました。本当にありがとうございました。」

◇**事業内容**

AMDAが最初にジーナアミタッブ無償寄宿学校と一緒に活動したのは、2018年のこと。日本のAMDA支援者様からご寄付いただいた衣類などを現地の人たちに配布したことがきっかけだった。加えて、2018・19年に地元ブッダガヤロータリークラブと協力してヘルメットの配布を行った際、地元ロータリークラブとAMDAとのつなぎ役となったのがこの学校の事務局長であるビクラム氏だった。このようなご縁から、コロナ禍でも挫けず勉学を続けている生徒に「AMDA賞」を授与することができた。

今回、2021年12月25日、学校の事務局長、理事、校長先生、地元ロータリークラブメンバーなど5人からなるAMDA賞委員会が選出した生徒男女10人に「AMDA賞」トロフィーと500ルピー（約710円）を授与した。各受賞者は参考書、文房具を購入するなど、勉学に必要な費用の補填に、この500ルピーを使用した。

生活支援

インド・ビハール州ブッダガヤ：お年寄りの家支援

フィリピン非正規労働者支援感染対策セット配付

1　有機農業事業

■ AMDA フードプログラム

AMDA マリノ農場

◇**実施場所**：　インドネシア・マリノ村

◇**実施期間**：　2014 年～継続中

◇**従事者**：　現地農家 14 世帯／ AMDA インドネシア支部

◇**事業内容**：

2012 年 4 月、「食は命の源」をコンセプトにアジア有機農業の普及を目的とした AMDA フードプログラムを岡山にて開始。岡山で研修を受けたイヤワティ氏と地元の若手農家が 2014 年マリノ村で開始した。

インドネシア・南スラウェシ州にある AMDA マリノ農場は、2022 年に設立 8 周年を迎える。AMDA、AMDA インドネシア支部、地元農家が共同で運営する当農場では、設立当初から健康な食の重要性と環境に配慮した作物の栽培を推進してきた。これが追い風となり、年々有機栽培を始める農家が増えている。新型コロナウイルスの世界的流行により、あらゆる産業分野が影響を受ける中、農業は比較的堅調を維持してきた。当農場では、白米や赤米のほか、従来の野菜に加えて、新たな作物の栽培が盛んである。現地の物とは少し異なる日本のキュウリなどはその一例といえよう。ユニークな試みとして、近年では顧客の 1 人が当農場産の米粉を使った肌に優しいマスクの開発に取り組んでいる。

2　その他

■インド・ビハール州ブッダガヤ：お年寄りの家支援

◇**実施場所**：　ビハール州・ブッダガヤ地区

◇**実施時期**：　2022 年 1 月～ 3 月

◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**：　AMDA 本部、お年寄りの家

◇**受益者数**（2021 年度）：　延べ 15 人

◇**受益者の声**：

「現在 15 人のお年寄りが「お年寄りの家」に住んでいる。コロナ禍では AMDA をはじめ、NGO やブッダガヤのお寺などが配布する食糧支援によって、「お年寄りの家」に住む人たちの食糧の一部を確保した。AMDA の支援によってお年寄りの方々に必要なものを提供できてとても嬉しい。心より感謝を申し上げたい。」

◇事業内容：

インド・ビハール州ブッダガヤにある AMDA ピースクリニックの元職員であるヴェーダ氏はブッダガヤ郊外のシュリプール村で「お年寄りの家」を運営している。AMDA も井戸建設や食糧支援など、以前から継続的に「お年寄りの家」に対する支援を続けている。

地元の警察署や大学病院などから身寄りのないお年寄りがいると連絡を受けると、ヴェーダ氏はその人たちをオートリキシャー（地元住民の足として使用されている三輪バイク）で迎えに行き、「お年寄りの家」に連れてくる。この施設にはお年寄りや心身障がい者 15 人ほどが暮らしている。日本にあるような設備の整っ

た老人ホームとは違う上に、提供される食事も豆や野菜を中心とした質素なものである。コロナ禍では AMDA をはじめ、NGO やブッダガヤのお寺などが配布する食糧支援によって、「お年寄りの家」に住む人たちの食糧の一部を確保されていた。2022 年 1 月から AMDA は「お年寄りの家」の支援を始めた。お年寄りのお家で必要な食料品、燃料費用、衣料品、おむつ、医薬品、治療代、お葬式費用などを支援している。

■フィリピン・街の生活を支える非正規労働者支援～「あなたがヒーロー」キャンペーン～

◇実施場所： マニラ首都圏マカティ市、ラグナ州

◇実施日： 第 1 弾 2021 年 9 月 13 日、
第 2 弾 12 月 8 日

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

AMDA フィリピン支部、フィリピン産業医学会（PCOM）マカティ支部・ラグナ支部、ロータリークラブ マニラ 101 など

◇受益者数： 第 1 弾 125 人、第 2 弾 100 人

◇受益者の声：

・「自分たちがしている仕事は大切だし、感謝されている、と感じました。」
・「この感染対策セットはとても便利だし役立ちます。」
・「私たちのことを覚えてくれていてありがとう。今回提供いただいて本当に幸せです。」

◇事業内容

コロナ禍においてフィリピンの非正規労働者とその家族の多くは衛生環境が悪く、混み合う場所で仕事をし、医療機関に行けない。加えて、日銭暮らしのため、都市封鎖や経済の混乱により極度の貧困に陥るリスクと常に隣り合わせの状況にある。実はこのような生活を送る非正規労働者が労働市場の大部分を占めている。AMDA フィリピン支部は協力団体とともに非正規労働者へ「あなたたちを見放していません。いつもありがとう。あなた方がヒーローです。」というメッセージを伝えるキャンペーンを 2 度実施した。

特に都市部の貧困地域に暮らす非正規労働者は、新型コロナウイルス感染症やその症状、感染症対策についての正しい知識を持っておらず、彼らが仕事を継続できたとしても、個人防護具の確保や清潔な手洗い場の利用は難しい。そのため、第 1 弾として 9 月 13 日、フィリピン産業医学会（PCOM）マカティ支部らの協力のもと、AMDA フィリピン支部はマニラ首都圏マカティ市を通行する非正規労働者 125 人に感染対策セット（手指消毒液やマスク、ポカリスエット飲料 1 本）と感染対策情報のチラシを手渡した。

そしてクリスマスシーズンの 12 月 8 日、同支部は第 2 弾としてマカティ市に加え、マニラ首都圏の南東に位置するラグナの 2 カ所で非正規労働者、特に三輪駆動車運転手への支援を実施。PCOM マカティ支部・ラグナ支部やロータリークラブ マニラ 101 らと協力し、パスタやマスク、手指消毒液などを合計 100 人の方に提供した。

ナバロ AMDA フィリピン支部長は「非正規労働者はコロナ禍において弱い立場に置かれており、健康を取るか、生活の糧を取るかという選択に迫られています。AMDA フィリピン支部と PCOM をはじめとした民間団体は非正規労働者が庇護の対象であることを認識し、彼らへの支援を行いました。コロナ禍においても、非正規労働者は本当に私たちの生活に欠かせない人たちでケアが必要です。」と述べた。

連携協力協定調印

■国内連携協力協定調印

・日本労働組合総連合会岡山県連合会「災害時における緊急医療支援活動実施に関する連携協定」　2021 年　9 月 21 日
・兵庫県養父市　「災害時における連携協定に関する協定」　2021 年 12 月 27 日

特定非営利活動法人アムダ（AMDA）団体概要

所在地	〒 700-0013　岡山県岡山市北区伊福町 3 丁目 31-1
設立年月日	1984 年 8 月 国連経済社会理事会「総合協議資格」取得　2006 年 認定 NPO 法人に認証　2013 年 5 月 8 日付
AMDA グループ構成団体	特定非営利活動法人アムダ : AMDA AMDA インターナショナル（任意団体） 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター AMDA 兵庫（任意団体）
海外活動	緊急医療支援、難民医療支援、復興支援、合同医療ミッション、 スポーツ親善交流、グローバル人財育成、フードプログラム、セミナー開催　など
活動国	日本、ネパール、インドネシア、ハイチ、モンゴル、インド、ルワンダ、 フィリピン、バングラデシュ、カンボジア、ホンジュラス、ハンガリー　他
国内活動	緊急医療支援、復興支援、フードプログラム、こども食堂支援、出張講演、 大学講義受託、活動報告会・セミナー開催、 AMDA 中学高校生会、イベント参加、 南海トラフ災害対応医療チーム派遣準備　など
AMDA 支部	沖縄支部、神奈川支部
AMDA クラブ	高知、玉野、福山、竹原、神女（神戸女子大学）　各クラブ
スタッフ	常勤 8 人　非常勤 1 人　派遣 2 人
会員数	632 人
ER ネットワーク登録数	585 人

2022 年 6 月 30 日現在

特定非営利活動法人　アムダ（AMDA）役員

理事長	菅波　　茂	医師　AMDA グループ代表
副理事長	菅波　知子	医師
理事	佐藤　拓史	医師　東亜大学医療学部教授　モンゴル国立医科大学招聘教授
理事	中西　　泉	医師　医療法人社団慶泉会町谷原病院　理事長
理事	難波　　妙	特定非営利活動法人アムダ　GPSP 支援局長
理事	難波比加理	特定非営利活動法人アムダ　財務部長
理事	野島　　治	元倉敷市教育委員会　嘱託啓発指導員・小学校校長
監事	広田　眞美	医師　医療法人和仁会　福岡和仁会病院

2022 年 6 月 30 日現在
（理事名　五十音順）

国内の動き

■大学・専門学校等講義

岡山大学、ノートルダム清心女子大学、福山市医師会看護専門学校、鳥取看護大学、岡山県立大学大学院、玉野総合医療専門学校、朝日医療大学校、相生市看護専門学校、美作市スポーツ医療看護専門学校、岡山医療福祉専門学校、旭川荘厚生専門学院（実施日順）

■講演

玉野市立荘内中学校、日本労働組合総連合会岡山県連合会、徳島県立冨岡東高等学校羽ノ浦校、岡山県立倉敷中央高等学校、岡山市立上南公民館、岡山市立津島小学校、岡山県立津山東高等学校、岡山県立倉敷青陵高等学校、岡山市立岡山後楽館高等学校、岡山西南ロータリークラブ、沖縄平和賞委員会事務局、一般財団法人日本公衆衛生協会、岡山市立幸島小学校、北海道リハビリテーション専門職協会、公益財団法人岡山市ふれあい公社南ふれあいセンター、岡山市立石井小学校、おかやまコープ備北エリア、岡山県教育委員会、山陽学園中学校（実施日順）

■研修受け入れ　なし

■インターンシップ受け入れ　なし

■主催イベント

・まちかどトーク（2021 年 4 月 20 日、7 月 14 日、10 月 8 日、11 月 17 日、12 月 28 日、2022 年 3 月 24 日）
・黒潮町中学生高校生との災害・防災についての交流会（2021 年 8 月 24 日）
・AMDA 平和構築プログラム
『オンラインによるバングラデシュと日本の学生による平和構築プログラム』
（2022 年 2 月 27 日）

■共催イベント

・おかやまコープと岩手県大槌町 AMDA 健康サポートセンターとオンライン交流会（主催：おかやまコープ）（2022 年 1 月 25 日、3 月 1 日、3 月 15 日）

■主な参加イベント

・イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン（2021 年 4 月 9 日）
・高知県協議会（2021 年 5 月 21 日）
・高知市防災訓練（2021 年 10 月 31 日）※雨天のため屋外訓練中止・室内訓練見学
・一般社団法人　岡山経済同友会　第 21 回教育フォーラム
「絆をつないで　～被災地での奉仕活動から 10 年～」（2021 年 11 月 18 日）
・四国の右下防災旬間関連事業（避難所開設・運営訓練）（11 月 28 日）
・JDR 総合訓練　陸上自衛隊援助隊（2021 年 12 月～ 24 日）
・協力医療機関倉敷中央病院講演会（2021 年 12 月 7 日、2022 年 2 月 8 日）
・徳島防災時対応研究会第 9 回研修会（2022 年 1 月 9 日）
・総社市防災訓練（2022 年 2 月 22 日）
・徳島県西部災害医療 Web セミナー（2022 年 2 月 24 日）
・赤磐市パネル展示（2022 年 3 月 11 日）

※ AMDA ボランティアセンター事務局長　竹谷和子儀
令和 4 年 1 月 26 日に永眠いたしました。ここに生前のご厚誼に深く感謝するとともにご冥福をお祈りし、謹んでお知らせいたします。

会計報告

貸借対照表

2022年3月31日現在（単位：円）

資　産　の　部		負債・正味財産の部	
【流動資産】		【流動負債】	
現金預金	368,623,105	未払金	5,020,042
未収会費	30,000	預り金	195,676
未収金	841,090	流動負債計	5,215,718
棚卸資産	3,606,250		
前払費用	432,600		
仮払金	5,654,193	負債合計	5,215,718
立替金	32,616	【正味財産】	
流動資産計	379,219,854	前期繰越正味財産	427,489,885
		当期正味財産増減額	21,735,451
【固定資産】		正味財産計	449,225,336
有形固定資産	4,395,205		
投資その他の資産	70,825,995		
固定資産計	75,221,200		
		正味財産合計	449,225,336
資産合計	454,441,054	負債及び正味財産合計	454,441,054

活動計算書

2021年4月1日から2022年3月31日まで（単位：円）

【経常収益】		
受取会費	5,582,000	
受取寄附金	78,341,881	
受取助成金等	4,343,667	
事業収益	866,403	
その他収益	4,763,103	
経常収益計		93,897,054
【経常費用】		
【事業費】		
人件費	29,090,396	
その他経費	28,910,261	
事業費計		58,000,657
【管理費】		
人件費	6,602,178	
その他経費	7,558,768	
管理費計		14,160,946
経常費用計		72,161,603
当期経常増減額		21,735,451
税引前当期正味財産増減額		21,735,451
当期正味財産増減額		21,735,451
前期繰越正味財産額		427,489,885
次期繰越正味財産額		449,225,336

ウクライナから徒歩で約 1 か月かけてベレグスラーニーに
辿り着いた男性を足湯で暖める AMDA 看護師